①

7月29日付けの北日本新聞の

記事を読んで思うこと

芝園中学校一年

堀岡茜李

私は、「福島の農産物　味わって」という記事を読みました。東京電力原発事故からの福興支援で会員企業が協力する活動の第一弾として、東京商工会議所が福島県産の農作物や物産品の展示販売会を東京品川区で開いたものでした。風評被害で販売が鈍っている福島県産品を継続的に支えていくことが狙いだそうです。

実は、私の家でも福島やその周りの県でつくられた食品は買わないようにしていました。でも、一人一人が努力しなければ風評被害はなくならないと思うので、支援のために福島県産の食品を積極的に買っていきたいと思います。

インターネットを見てみると、「福島県産

のものは一生買わない」や、「福島のものを買っている人はおかしい」などのことが書かれていて、私はとても悲しくなりました。風評被害のせいで一生懸命つくった安全でおいしい食品を食べてもらえない農家の人の気持ちも考えてほしいです。

インターネットで他の風評被害の事例を見てみると、福島でつくられた花火の打ち上げが中止された、など色々なものがありました。その花火の打ち上げは、復興支援として行われようとしていたものなので、一連懸命花火をつくっていたのに風評被害を助長させることにしかならなかったのはとても悔しいだろうなと思いました。

しかし、東日本大震災からもう三年もたっているのに、この記事では「活動の第一弾」となっているので、それは少し遅いのではないかと思いました。すぐに風評被害への対策などをしていればこんなに風評被害が広がることもなかったのではないかと思いました。

でも、時間はもう戻らないのでこれからたくさんの対策をしていくしかないだろうと思いました。

風評被害というものは、確かに完全になくすには時間がかかるだろうし、大変だと思うけれど、一人一人が風評被害をなくすことを努力することが大切だと思いました。

東京商工会議所が開いた福島県産品の
展示販売会―28日午後、東京都品川区

福島の農産物 味わって

東京商議所が展示販売会 継続的に復興支援

東京商工会議所は28日、モモ、日本酒といった福島県産の農産物や物産品の展示販売会を東京都品川区で開いた。東京電力福島第1原発事故からの復興支援として、会員企業が協力する活動の第1弾。風評被害で販売が鈍っている福島県産品を継続的に支えていくのが狙い。

今回はJTBが協力し、複合ビル「天王洲シーフォートスクエア」で29日まで開催。旬のモモ「あかつき」のほか、みそやケーキ、ジャムといった加工品など約80種類が並んだ。近くのオフィスからも昼休みを利用して買い求める人が集まった。

東商の佐々木隆副会頭（JTB相談役）は式典で「福島の食品を市場に提供するまでの検査体制の厳格さを見てきた。日本で一番安全な食品といわれる。おいしさを味わって、福島に旅もしてほしい」と話した。